

# 安平町地域見守りネットワーク

行政、町内会、警察、消防、各種団体、事業所が連携

安平町地域見守りネットワーク

**安** 平町では平成18年から「地域ネットワーク会議」という行政、町内会、警察・消防、各種団体、事業所などが集まり地域づくりのための会議や研修を行ってきており、さらにはネットワーク会議参加者以外に学校関係や商工会、公共交通機関なども参加して、高齢者だけではなく子供



やしょうがい者を対象とした地域住民の参加と協力による「支えあい」「助け合い」を目的とした「地域見守りネットワーク」という組織を立ち上げています。また、ここ数年は認知症をテーマとし、その中で北海道グループホーム協会の後援を得て23年度には小原副会長、24年度には宮崎会長の講演の後、徘徊模擬訓練を実施しました。24年度にはGPS携帯(条件のあった方には町から無償貸与)を使用した位置情報システムによる捜索も行い、



終了後のグループ討議の中では「GPSを使っても本人が移動中では後追いになり見つけられない」「どうやって本人に持って歩いてもらうようにするのか」「中々見つけられない。実際にはもっと困難なので



ある」「どの程度の情報をどの範囲までどのように周知するのか」等といった感想や意見が出されていたようです。さらに今後の取り組みで、

**捜** 索協力員(主に団体)として登録すると、緊急連絡体制が整備され、行方不明者の捜索依頼がメールで送られてくることになります。また、徘徊のおそれがある高齢者などが

事前に登録していると写真などの必要な情報がいち早くで送信され、早期発見につながる事ができると期待されております。ちなみに24年度の徘徊模擬訓練には宮崎会長も徘徊役として特別参加しましたので、私は会長の気持ちを推測して探して見ましたが見つけることはできませんでした。



グループホーム さかえ  
管理者 中田 良彦

**広** がる地域ネットワーク：高齢者、しょうがい者や子供たちが住み慣れた地域で、たとえ認知症になっても安心して暮し続けることができるよう、地域に住民や民間事業所など、多くの方々の協力を得て、地域

全体で支え合う「ネットワーク」が全道の市町村に広がりつつあります。地域住民、事業者、行政の連携による「支え合い」「助け合い」の推進のため、会員の事業所さんの地域でも更なるご協力をお願いいたします。

## 編集後記

このたび「大空と希望」広報誌第7号を皆様のお手元にお届けする事が遅くなりました、心よりお詫び申し上げます。また「大空と希望」の編集にあたり、たくさんの方々にご協力を頂き、誠にありがとうございました。今この「大空と希望」の執筆(一部)、編集、デザイン校正に取り組み終るところですがなかなか思った以上に手ごわいものではなかったと自身の勉強となりこのような機会を与えてくださったことに感謝しております。ところで最近の研修会での心を動かされた出来事を振り返りたいと思います。『…突然の「病はとり込め」の文字にこめられた思い…。友人が病に倒れ臥している時のこと、旭川市内の職員研修会で講師の方が突然ある文字をホワイトボードに書かれて、私たちに見せることなく参加者約70名の了解を得ながら、その文字と一緒にカメラのレンズに撮り込んでその友人にメール送信された。「病はとり込め」の文字である。説明はされなかった。受けとったご本人はどう感じたのだろうか。いつかお聞きしてみたいと思う。病はつらい。腰痛持ち20年の私には 難解で重い言葉である。病もありのままの自分で、現実寄り添い楽しめと語っているのだろうか。でも最近、幸せはなるのではなく感じるものだと思えるようになってきた。一瞬で幸せに感じられることを。今一緒にいる人々のおかげで、大切なものをいただいているような気がしています…。』

友人の快復を祈りつつ…

編集後記とさせていただきます。(小原陽一)

# 大空と希望



NO 7

一般社団法人北海道認知症グループホーム協会  
広報誌「大空と希望」2013年4月発行  
〒060-0001  
札幌市中央区北1条西7丁目 広井ビル3F  
TEL:(011)208-3320 FAX:(011)204-7312  
URL http://h-gh.net

## 「家族」

**先** 日、NHKの番組で三重県の「答志島」という島での出来事を、都会から島へ嫁ぐ女性の視点で描かれていたドラマを観た。漁師町である「答志」は、夫婦で漁に出る。夫婦が支え合う「夫婦舟」である。その人たちは、島全体が家族のように支え合っている。自分の子どもを「誰か！この子見てー！」と言うと、自然と誰かが出て来てその子をあやす。お母さんが用事を済ませ「ありがとう」と一言。皆がみんなのことを知っている。みんなが皆のことを思って、自然に支え合っている。こんなコミュニティが、まだこの国にあったのかと心が暖まった。

ここだと、例え認知症になっても大丈夫だろうと思った。幼児虐待や高齢者虐待なんか起きないだろうなと思ひ、自分の周りで起きている様々な悲しい出来事に心痛め、「家族」とは何かをあらためて考えさせられた。  
感謝

一般社団法人 北海道認知症グループホーム協会  
会長 宮崎 直人



## 事例発表北海道大会 旭川(道北ブロック)で10月5日(土)開催

**旭** 平成25年度の事例発表北海道大会は旭川市に於いて10月5日(土曜日)に開催される事が決定いたしました。4日夜には親睦交流会も行われます。日々介護サービスの向上のため、私たちにできることは何か常に考えながら様々な取り組みを行っておられることと思います。多くの参加者が事例の発表をすることで、内容の自己



点検、気づき、現状への再確認ができ、制度や地域の状況、考え方の差異などに気づかされ、その個別の内容を全体で共有することによって一歩前進した支援や地域づくりへのヒントになることを主旨に行われるものです。また多くの一般市民や異業種の方々にもご参加いただき共に認知症について考え学び交流の場ともなることを願っているところです。今後皆様には大会要項等は後日お知らせいたします。

皆様、10月5日旭川で  
お会いしましょう。

昨年度は道央ブロック札幌ブロックの皆様のご協力により認知症ケアと地域づくり事例発表北海道大会を盛大に終了することができました。両ブロックによる企画運営等を行って頂き、次ページにあるように多くのことを学び、又両ブロックの会員相互の信頼関係をさらに構築することができたのではないかと思います。今年度は事例発表北海道大会を旭川市(道北ブロック)で10月5日(土)に開催することになりました。全道の実践事例を多くの皆様と共有し共に学んでゆきたいと思ひます。



# 認知症ケアと地域づくり事例発表北海道大会を終えて

## 札幌ブロック 道央ブロック

ブロック活動に積極的に繋げてゆきたい。

平

平成24年10月27日(土)「認知症ケアと地域づくり事例発表北海道大会」が無事に終了いたしました。当日は晴れ晴れとした秋晴れの中、会場である恵庭市民会館に278名の方々がお越し下さり、大会を盛り上げて下さいました。大会の事例発表では、全道各地からご参加頂いた発表者の方々が、地域住民の一員として生活する利用者のイキイキした姿や、



事業所での素晴らしい取り組みを発表して下さいました。参加者アンケートでも「テキストや型にはまって何も知らなかったが、生の声を聞いて良かった」「色々な取り組みが聞いて参考

になった。これから色々実践していきたい」などのご意見をいただきました。

また、基調講演では株式会社大起エンゼルヘルプオリティーマネージャーの和田行男様が「今、伝えたいこと」と題してご講話下さいました。息もつかせぬ怒濤の講演で、あつという間の1時間20分でした。専門職にとつての「認知症という状態にある人への支援」「人として生きることへの支援」とはどういうことかについて、ご自身の経験を交えたユニークかつツボを押さえたご講話に、会場の深いため息や涙を誘いました。他にも、当協会の北海道認知症地域コーディネーター研修修了生による発表や永年勤続表彰授与式も大会の中で行なわせて



いただきました。今回の大会は、道央ブロックと札幌ブロックとの合同開催でした。協会から大会主催の提案が全道のブロックにありまして、それに手を挙げたのがこのふたつのブロックでした。



道央と札幌は地区も隣同士ですし、それでは一緒に共同開催いたしましょう!というのが、今回の2ブロック共同開催の始まりでした。しかし、恥ずかしな

がら両ブロックとも、それまでブロック活動に消極的であったというのが現状でした。それと共に大会開催について全くと言って



いいほど無知な私達でしたので、大会準備は前途多難で、多くの方々からのご指摘やお叱りの声も受けました。

大会の準備を進めていけばいくほど、大会準備の大変さ、大会

開催の重みや責任をひしひしと感じていったものです。何も分からないところから、多くの方のお力をお借りしてこうして一つの事をやり遂げられた事は、私達の大きな自信となりました。ご協力下さった多くの方々へ心よりお礼申し上げます。これで終わることなく、今回の大会で得たものを活かして、これからのブロック活動に積極的に繋げていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

札幌ブロック事務局 大会実行委員 数馬愛子

### 分かろうとする

言葉のないあなたの心の声を聞こうとする  
言葉のないあなたの心の痛みを感じようとする  
分からないかもしれない  
でも私は分かろうとする  
言葉や意味をこえて私はあなたを分かろうとする  
藤川幸之助

## 第4回永年勤続表彰

(事例発表北海道大会旭川で行います)

当

協会では、会員事業所に勤務する職員等を対象に永年勤続表彰を行います。今年度は第4回となりますがこの永年勤続表彰は、長年に亘り認知症介護の最前線で活躍している会員事業所の役職員の皆様を対象に、その功績を讃え、今後の励みにと考えて実施しております。この表彰は、単に一企業にお勤めになった方の表彰ではなく、認知症共同生活介護に長年従事された方を対象に当協会として表彰させて頂いております。なお、今年度は事例発表北海道大会旭川市にて表

彰を行います。この大会には、できるだけ多くの方々にご参加いただき、表彰者の皆様を大勢の方々で祝福できればと考えております。募集要項は追って会員の皆様にお知らせさせて頂きます。



# 「長崎市GH火災アンケート調査」

ご協力ありがとうございました。

長

崎市グループホーム火災に関するアンケート  
平成25年2月8日に発生いたしました、長崎県でのグループホーム火災事故で亡くなられた方々には、心からお悔やみ申し上げます。また、今回の火災に遭われました皆様、及びご家族、関係者の方々には謹んでお見舞い申し上げます。

上記火災事故を受け、当協会にてアンケートを実施いたしました。アンケートの集計結果について下記の通り報告させていただきます。下記の記載については、主だった意見の記載となっております。その他の記載については当協会ホームページにて掲載しておりますので、そちらでご覧下さいませようお願いいたします。

長崎市グループホームの火災に関するアンケート集計  
平成25年3月1日 北海道のGH事業所数: 887  
回答数: 610 回答率: 68.8%

アンケート1) ユニット数

①	②	③	合計
143	430	37	610

アンケート2) スプリンクラーの設置  
①あり ②なし ③設置予定

	①	②	③
1ユニット	128	13	2
2ユニット	427	3	0
3ユニット	36	1	0
合計	591	17	2

アンケート3) スプリンクラーなしの場合の理由をお聞かせください。

・消防基準以下であり、手出し金額を多額に出す余裕はありません。今の消火設備器で十分に事故を防ぐ事ができます。  
・現在の建物が賃貸契約にて運営しており、その契約が残り4年で満了するので、スプリンクラーの設置を見送っていたため。  
・スプリンクラーより平屋建てで避難しやすい家屋が良いと考える

アンケート4) 今回の火災の件について事業者としてのご意見をお聞かせ下さい。

i) スプリンクラー設置済み事業所の意見  
・訓練および地域との協力体制が重要である  
・火災時のマニュアル、暖房器具や電気器具等の確認を行う・火災を出さないことが重要である  
・275㎡未満のスプリンクラーの設置義務化等の基準の強化の必要性を感じる  
・夜間の勤務体制(勤務者1人:利用者9人)によるスタッフの不安がある  
・職員への周知の徹底、意識向上に努める(研修をするなど)  
・夜間の勤務体制の強化による、更なる加算(介護保険)等の要望

ii) スプリンクラー未設置の事業所の意見  
・せっかく防火のための設備があり、少㎡のホームではスプリンクラーは必要ないと思います。訓練でOKです。  
・本当に身の凍る思いです。夜勤の体制も2名にしたいが、現状ではとても無理。ただ各部屋の暖房設備はより

心配性のない物に替え、消防訓練も事あるごとに行っています。  
・スプリンクラー設置を考えているが、この先の車の老朽化やホームの屋外環境設備が優先となっており、予算がつかない現状がある。命の大切さと運営との狭間に悩んでおります。  
・地域の人達との避難訓練が不可欠である。スプリンクラーは命を守るものではない。



訓

練、地域との協力体制、マニュアルの整備、器具等の点検、スプリンクラーの整備等のありとあらゆる手段をもちいて、「命」を守ることが重要だと思います。上記とホームページの掲載内容をご確認いただき、それぞれが再度お考えいただく機会となれば幸いです。最後に、多く皆様にアンケートのご協力いただき誠に感謝申し上げます。



## 虐待防止 組織全体で認識を!

函館市のグループホームで介護職員だった24歳の男性が、去年9月、入居されていた78歳の男性の頭を殴ったとして、3月22日に暴行の疑いで逮捕されました。

度とこのようなことが起きないように施設や事業所の問題と捉え、決して他人事とせず、職員どうしや上司とのコミュニケーションがとれる環境作りや地域交流、ボランティア・実習生受け入れなど開かれた施設運営も大切です。職員個人の問題にせず組織全体の問題として認識し虐待を防止する風土を作ってゆきましょう。

### 「弱い」の漢字の話:

「どうしてこのような大会社を一から築くことができたのですか?」と聞かれた松下幸之助さんは「体が弱かったからです」と答えたそうです。「子どもの頃から体が弱かった。だから、いろいろな人に助けをもらえた。それで、人のありがたさがわかった。体が弱かったから、他の人ができることは人に任せました。それで優秀な人が育った」と。「弱い」という字を見てみました。「強い」には「弓」は一本しかないけれど、「弱い」には2本あります。しかも、全く同じ形の文字がふたつ組み合わさって、まるで寄り添い合っているかのようです。弱い自分と向き合う事が大事なのだと思います。そして、弱いからこそ誰かに頼れる。弱点があるからこそ、それを補うために人と一緒に何かをしようと思える。弱点があるって、そこから広がる可能性を秘めているのかもしれないですね。「弱い」からこそ、人間は高く「羽」ばたけるのかもしれない。

「漢字は答えを知っている。」から抜粋

## 実践者、管理者、実践リーダー研修 日程と開催都市

### 認知症介護実践研修 (実践者研修)

- 第1回(札幌市)  
平成25年5月14日～17日及び6月10日
- 第2回(帯広市)  
平成25年6月27日～30日及び7月22日
- 第3回(旭川市)  
平成25年7月16日～19日及び8月8日
- 第4回(苫小牧市)  
平成25年8月20日～23日及び9月17日

### 認知症対応型サービス 管理者研修

- 第1回(札幌市)  
平成25年6月10日～11日
- 第2回(帯広市)  
平成25年7月22日～23日
- 第3回(旭川市)  
平成25年8月8日～9日
- 第4回(苫小牧市)  
平成25年9月17日～18日

### 認知症介護実践研修(実践リーダー研修)

- 第1回(北見市)  
第1週目平成25年5月28日～6月1日  
第2週目平成25年6月11日～6月15日  
報告まとめ平成25年7月19日
- 第2回(釧路市)予定  
第1週目平成25年9月2日～9月6日  
第2週目平成25年9月9日～9月13日  
報告まとめ平成25年10月21日
- 第3回(札幌市)予定  
第1週目平成25年11月18日～11月22日  
第2週目平成25年11月25日～11月29日  
報告まとめ平成26年1月7日



日程等変更になる場合がございます詳しくはHPをご覧ください。

## ターミナル研修、計画作成担当者研修 日程と開催都市

### ターミナルケア研修

- ターミナルケア研修Ⅰ(札幌市)  
平成25年9月28日(土)
- ターミナルケア研修Ⅱ(札幌市)  
平成26年1月18日(土)

### 計画作成担当者研修

- 計画作成担当者研修(札幌市)  
平成25年12月6日(金)



## 「認知症対応型共同生活介護のあり方に関する調査」 注視すべき内容と観点が抽出されました。

ご協力を頂きありがとうございました。  
詳しくは協会HPをご参照ください。

**認**知症対応型共同生活介護のあり方に関する調査(老人保健健康増進等事業)の実施について会員の皆様のご協力をいただきました感謝申し上げます。  
介護保険制度の開始から十数年が経過し、当初からの入居者も歳月の経過等による心身の能力低下に伴い医療ニーズや看取りのニーズまで求められるようになってきていること、その他にも軽度要介護者や在宅サービスのニーズ等の大幅な増加への対応として、地域との関わりの中でデイサービスやショートステイのサービスも求められるようになってきていること等、認知症グループホームに期待される機能等が徐々に拡大してきています。これら様々なニーズ等に対応するため、認知症グループホームの機能が事業所によって多様化してきており、今後「認知症グループホーム」とはどういうサービスを指すものなのか、改めてその位置づけ・機能やあり方等を整理する時期にきていると言えます。本事業では、認知症施策の中核的役割を担うための認知症グループホームのあり方等を検討していくための出発点として、実態としてどのような事業所が多いのか等の基礎データを収集・整理することを目的としました。

**本**事業の結果、利用者のニーズの変化に応えてきた結果として、多様化・多機能化する事業所の様子、それに対する課題や期待等が浮き彫りになり、利用者の状態や認知症ケアの状況、医療ニーズへの対応、人材育成等に関し、「グループホームのあり方」を検討する上で、以下のような示唆に富む多くの内容が抽出されました。

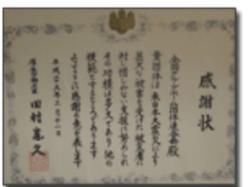
- 多くの事業所が制度開始当初からの日常生活のケアや個別ケアを行いつつも、利用者の状態の変化等に伴う多様なニーズ(医療ニーズや看取り等)にも、(程度の差はあるものの)できる限り対応していること。
- 対応の程度の差は実施体制に起因することが多く、併設・グループ施設はないがスキル・資格等を持つスタッフにより対応できている事業所(営利法人・NPO等の経営が多い)や、逆に併設施設等との連携により対応する事業所(医療法人経営が多い)が多く見られること。
- 事業所の類型化の試みにより、日常生活ケアや個別ケアに強い事業所や、加えて医療対応に強い事業所、いずれも平均的で特徴のない事業所等に分類できる兆しが見えたこと。
- 事業所の特徴が表れる背景として、経営者や管理者の経営方針やその徹底の程度、スタッフ育成の注力度(投資)等が大きく影響していること、等本事業では、有識者や事業者等の関係者から成る検討会にて調査内容や結果を検討・精査および助言・指導等いただきましたが、以上のような実態を踏まえ、検討会では多様かつ重要な議論がされました。中でも、ユニット化の進行等によりケアの内容等が似通ってきている特別養護老人ホームとの差別化は、来年度以降の具体的な「グループホームのあり方」を検討する上で重要な観点となりました。

## 全国グループホーム団体連合会 厚生労働大臣から感謝状拝受のお知らせ ＝東日本大震災支援の功績多大として＝

当協会は設立同時から全国グループホーム団体連合会に加入し今日まで会員として活動を続けています。東日本大震災発生以来支援金を全国グループホーム団体連合会を通して被災地に届けられました。会員各位にお礼文が届いております。-会員各位にお礼-平成23年11月東日本大震災発生以来当会はいろいろな支援事業を続けられた

のも会員各位の絶大なるご理解とご協力のたまものです。ここに改めて感謝の意を表します。復興は今も継続中であり、今後もできる限りの支援をお願いいたします。

詳しくは当協会HPをご覧ください。



## 介護福祉士会空知支部と連携 事例発表・交流会 空知ブロック

**空** ブロック予選 やっちゃいました

知ブロックでは、協会が行っている事例発表全道大会での発表を希望する方がなかなか出ないのが現状です。そこで24年度は9月21日に空知ブロックでは全道大会の予選を兼ねた【事例発表会・交流会】を妹背牛温泉で開催いたしました。この【事例発表会・交流会】は、平成22年よりブロック内研修等で共催をしていただいている介護

福祉士会空知支部との共催事業として行い、介護福祉士会からも2事例を発表していただき、グループホームの取り組みだけではなく、更生事業所や特養の取り組みの取り組みも聞かせていただき大変勉強になりました。また懇親会ではパークゴルフにバーベキューそしてログハウスに1泊。どこからどこまで参加しても

1000円という破格値で開催、57名の皆様が参加し空知ブロックが平成22年より力を入れていた横のつながりが出来た1日となりました。今回の【事例発表会・交流会】には包括支援センターの

方も参加してくれ『また来年も呼んで下さい』との声も頂きました。今年も開催したいと役員一同はりきって準備中です。

空知ブロック 会長  
高橋芳美



## 他業種、行政と連携、地域との共生へ 多数の研修会交流会開催 道南ブロック

**道** 南ブロック発  
平成24年12月6日(木)午後7時より、職員交流事業として、忘年会を函館国際ホテルで開催しました。当日は函館クリスマスファンタジーの大きなツリーが折れるほどの悪天候にもかかわらず、忘年会とそれに先立つ、「管理者会議」、伊藤メンタルクリニックの伊藤先生による「介護職員のストレスケア」の講演、そして「忘年会」と多数の職員の参加をいただきました。

「管理者会議」では、函館市福祉部の指導監査課から2名の方が出席され、報酬改正後の注意点や実地指導での指摘事項などを説明いただき、「介護職員のストレスケア」の講演では、職員の睡眠障害に関してお話をいただきました。

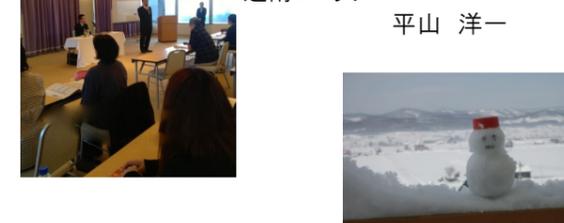
その後の忘年会では、先の3名の方々も参加され、全席自由の中、皆さん他の事業所との交流に花を咲かせ、また豪華景品付きビンゴ大会やじゃんけん大会と大いに盛り上がり、ドクターを含む有志によるバンド演奏など終始和やかに行われました。

今年の道南ブロックは、3月にGH職員による虐待が報道され、ご迷惑ご心配をおかけしましたが、「虐待防止

に関する研修「新人研修」「第8回北海道認知症フォーラム」3回にわたる「介護福祉士受験対策研修」そして上記の「忘年会」を開催し、3

月には新規開設事業所職員と新規採用職員向けの「超新人研修～入門編」を予定しています。私ども道南ブロックは、今後も他業種や行政と連携をとりながら、認知症高齢者の理解と安全、地域との共生、健全な職員の育成など、まだまだ課題はありますが、今後もひとつひとつ取り組んでいきたいと思っています。

道南ブロック  
平山 洋一



## 北海道から大阪まで1700Km 7月25日スタート:RUN TOMO-RROW 実施

認知症の当事者を含め1500人でたすきをつなぐリレー  
スタート旭川市内⇒ゴール大阪城公園

**走** 一緒に参加しませんか

る × 認知症 = つながる地域  
認知症の人に何か支援をするのではなく、走ること、襷をつなぐことを通じて、誰もがジブンゴトととらえ、企業、行政、市民が力をあわせ誰もが安心して暮らせる地域を作っていく、認知症フレンドシップクラブが主催する全国キャラバン活動です。皆様も参加してみませんか。

スタート：旭川市内 7月25日（予定）  
ゴール：大阪城公園 10月14日（予定）



担当者：徳田  
TEL:090-9101-1878

**地域ネットワーク(地域づくり)は家族の機能を補完、人間関係を修復、介護負担の軽減などを促進**

平成12年度から導入された介護保険制度により、「行政から措置される」福祉から「自ら選択する(自らも責任を負う)」福祉へと福祉制度がおおきく変わり、私たちの意識の変革も同時に求められています。

私たちをとりまく地域社会全体が変わりゆく時代に、住民一人一人の生活をみんなで見守り、応援して行く活動である地域ネットワーク(地域づくり)活動の推進が強く求められています。地域ネットワーク活動による「ふれあい」によって、地域の希薄化した人間関係を修復したり、家族の機能を補完したり、介護者の心身両面の負担を和らげたり、在宅サービスの利用を促進したりするなど、公私の社会資源を有効に活用し、私たちの生活を守る地域支援体制づくりの第一歩として位置付けることができます。そのためには粘り強く継続することが第一です。ネットワーク活動は、「こうしなければならぬ」というような決まった形はありません。反対に、形にこだわってしまうと、体制を作るだけで終わってしまったり、体制が追いつかないほど活動メニューを広げすぎてしまったり、ある程度決まった人だけに大きな負担を強いることになってしまったりなど、活動の継続が困難になってしまうことになりかねません。「同じ地域住民同士でお互いの生活をどう支え合っていくのか」という視点が大切で、それぞれの地域事情にあった独自の活動を展開していただくだけで良いのです。多くの住民の方々が活動に取り組めば、一人の負担も少なくなります。どんな小さな活動でも、継続をまず第一に考え展開していくことが望ましいのではないのでしょうか。

「小地域ネットワークづくり」より抜粋

